

伝えたいこと

玉野市立山田小学校六年 木下愛子

私には守るべき家族があります。

それは、家族同様にあずかるべきです。

時は令和七年三月二十三日十七時五十八分

私たちは親せきと、月山の方面に車で出かけ

ていました。私から山の方から黒い煙が見え

る。と言いつつ、みるみるうちに青い空に黒い煙

が広がりはじめ、それから山火事である事に気

づきました。それから、帰る頃には火が燃え

広がっていました。同時に、身の危険も感じ

ました。

この山火事は後に全国ニュースとなり、世

間に大きく知れ渡りました。

失敗は誰にでもあります。誰かを責めるこ

とできません。ですから、日頃からゴミを燃

やす住人が今もいます。

あの日多くのこう空自衛隊、消防隊員、消防

団の方が何日もかけて、朝早くから晩まで動

いてくださった。たことは、私の心に残るもので

した。空ではヘリコプターが一生けん命火を消してくれたさ、っているのに、地上の畑ではゴミを燃やしている人がいる事に気付きました。

山火事のことか心配で、夜も眠れない中、知り合いの消防団の方が、「大丈夫だから安心してねてくれたさ」と言ってくれて、人の優しさで温かさを感じましたか、私には、火を消してくれる方が、かんは、てくれてる中、畑でゴミを燃やしている人の気持ちの分か

りなくて、モヤモヤが残るばかりでしたので、毎年書かせていたたいっている玉野市の防火作文で、何としてでもこり思いを、伝えたく、半年前から作文の内容を考えていました。

私は今六年生。防火作文を書けるのが最後の年で、防げる火は、防いでとらいたく、地域の方にこの想いを届けたい。私一人では届かないので、その想いを届けたら、という気持ちで書きました。小

小さな火が大きくなり、一つの大切な命を

失くしてしまう事を知ってもらいたいです。

作文の始めに書いた、私には守るべき家族がいるという事です。私の家には、十一羽の、うさぎがいます。この山火事で、いざという時に逃げられなくなるこ、うさぎを置いて行く事になるので、ペットショップかきんのご好意で、十一羽を山火事がおさまるまで、預かってもらう事になりました。しかし、うさぎは環境が変わる事や、車で移動によつて、ストレスがかかり、預けて

いた十一羽中の七羽が体調を崩し、迎えに行く事になりました。八月間くらい、うさぎの体調が悪く、命の危険もありました。

今回の山火事で、人の命がいはわれなかつた事が、何よりの幸いでした。

この山火事を通して、私の中での防災の意識が今まで以上に高まりました。

ゴミを燃やすならば、火をあつかう事に、責任を持ってほしいと思いました。

時間が経つと忘れ去られてしまうのでは、

意味がないです。一生を生きていく中で、
うしても、一生かかっても足りない知識はあり
ます。先代の経験をしっかりと、体験し
た事はし、かり伝えたい。火災だけではなく
全ての事において、つながる事だと思いまし
た。

今回の山火事で消火活動に関、てくたさ
た全ての方に、感謝を直接伝えたいです。
そして、これから、私たちの命を守、て
下さるために、日々の訓練を、けん命にして

下さり、ありがとうございます。

地域の方々に、私の伝えたいこ、と、届きま
すように。